

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) ✓ 昭61-289474

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)12月19日

G 06 K 9/00
 G 06 F 15/30
 // E 05 B 49/00
 E 05 F 15/00
 G 07 D 1/00
 G 11 B 5/02

Z-8320-5B
 8219-5B
 6637-2E
 6637-2E
 C-8109-3E
 Z-7736-5D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 識別装置

⑯ 特 願 昭60-131449

⑰ 出 願 昭60(1985)6月17日

⑱ 発 明 者 山 吉 隆 一 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内

⑲ 出 願 人 ソニー株式会社 東京都品川区北品川6丁目7番35号

⑳ 代 理 人 弁理士 伊 藤 貞 外1名

明 細 書

発明の名称 識別装置

特許請求の範囲

顔、指紋及び声紋に関する識別情報が夫々異なるトラック上に記録されたビデオフロッピと、

該ビデオフロッピの識別情報を再生する再生手段と、

該再生された識別情報と被識別情報を比較する比較手段と

を備え、上記再生された識別情報と被識別情報が一致しないときは上記ビデオフロッピの取出しを阻止すると共に上記被識別情報を上記ビデオフロッピに記録するようにしたことを特徴とする識別装置。

発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は例えば入門時の識別等に用いて好適な識別装置に関する。

(発明の概要)

この発明はビデオフロッピに記録された識別情報と被識別情報とを比較し、一致しないときはビデオフロッピの取出しを阻止すると共に被識別情報をビデオフロッピに記録することにより、完全な機械化及び識別を可能にすると共に、証拠としても残すことができるようにしたものである。

(従来技術)

従来カードと暗証番号とを組合せた識別カードを用いる識別装置や写真付のものも提案されている。

(発明が解決しようとする問題点)

ところが識別カードを用いる従来装置の場合、暗証番号を本人が忘れたり、或いは他人に知られると簡単に悪用される等の欠点があった。また、写真付のものは、人間がいちいち比較しなければならぬので省力化ができず、しかも写真と似た人では見誤る可能性もある等の欠点があった。この発明は所る点に鑑みてなされたもので、完全

な機械化及び識別が可能であると共に証拠として残すこともできる識別装置を提供するものである。

(問題点を解決するための手段)

この発明による識別装置は、顔、指紋及び声紋に関する識別情報が夫々異なるトラック上に記録されたビデオフロッピ(1)と、このビデオフロッピの識別情報を再生する再生手段(4)、(5)と、この再生された識別情報と被識別情報を比較する比較手段(6)、(7)、(12)とを備え、上記再生された識別情報と被識別情報が一致しないときは上記ビデオフロッピの取出しを阻止すると共に上記被識別情報を上記ビデオフロッピに記録するように構成している。

(作用)

ビデオフロッピ(1)に記録された顔、指紋及び声紋に関する識別情報を再生手段(4)、(5)により再生し、カメラやマイクから入力される被識別情報と比較手段(6)、(7)、(12)で比較する。そして再生

された識別情報を被識別情報が一致したらOKと判断し、一致しなければ挿入されたビデオフロッピの取出しを阻止すると共に被識別情報を証拠としてビデオフロッピに記録する。これにより完全な機械化と識別が可能となり、また悪用されたとき証拠として残すことができる。

(実施例)

以下、この発明の一実施例を第1図～第3図に基づいて詳しく説明する。

第1図は本実施例の回路構成を示すもので、同図において、(1)はビデオフロッピ、(2)はこのビデオフロッピ(1)を回転駆動するモータである。ビデオフロッピ(1)の所定領域には予め関係する人の顔に関する静止画信号、指紋に関する画像信号、声紋に関する音声信号が夫々異なるトラック上に識別情報として記録されている。

ビデオフロッピ(1)に記録されている各識別情報は再生ヘッド(3)により読み出されて音声再生回路(4)及び映像再生回路(5)に供給される。音声再生回

路(4)で再生された音声信号は声紋比較回路(6)の一方の入力側に供給され、その他方の入力側にマイクロホン(7)より供給されてくる実際の音声信号と比較され、その結果は制御回路(8)に供給される。

映像再生回路(5)で再生された映像信号は、顔に関する静止画信号の場合はスイッチ回路(9)の接点a側を通過して画像比較回路(10)の一方の入力側に供給され、その他方の入力側に顔識別カメラ(11)より供給されてくる映像信号と比較され、その結果は制御回路(8)に供給される。

映像再生回路(5)で再生された映像信号が指紋に関する画像信号の場合は、スイッチ回路(9)の接点b側を通過して指紋比較回路(12)の一方の入力側に供給され、その他方の入力側に指紋識別カメラ(13)より供給されてくる映像信号と比較され、その結果は制御回路(8)に供給される。

制御回路(8)においては、比較回路(6)、(10)及び(12)で比較した結果が全て一致していれば、時計(14)からの時間情報を記録回路(15)に供給させ、それに対応した記録信号を記録ヘッド(16)

に供給してビデオフロッピ(1)にその時の実時間を記録させると共にビデオフロッピ(1)を排出させ、フロッピ挿入口(22)(第2図)の扉を開かせる。

一方、制御回路(8)は比較した結果が1つでも一致してなければフロッピ取出し阻止信号を発生すると共に記録回路(15)を制御し、その時のカメラ(11)及び(13)からの映像信号とマイクロホン(7)からの音声信号を記録ヘッド(16)によりビデオフロッピ(1)の所定領域に記録させる。

第2図はこの発明に係る識別装置の外観を示すもので、第2図Aはその側面図、第2図Bはその正面図である。同図において、第1図と対応する部分には同一符号を付して示す。(20)は説明用スピーカ、(21)はマジックミラー、(22)はフロッピ挿入口、(23)はガラス、(24)は第1図の如き回路ブロックである。

次に本装置の動作を第3図のフローチャートを参照して説明する。

ステップ(I)で動作開始し、フロッピ挿入口(22)よりビデオフロッピ(1)を挿入すると回路ブ

ロック(24)が動作し、スピーカ(20)より順次指示がなされる。ステップ(ロ)でスピーカ(20)より「顔を正面に向けなさい」と指示され、顔がマジックミラー(21)を介してカメラ(11)により写し出される。そしてその映像信号が面像比較回路(10)に供給され、ビデオフロッピ(1)からの顔に関する停止面像信号と比較され、人相は本人か否かが判断される。

一致すればステップ(ハ)に進む。ここでスピーカ(20)より「名前を云いなさい」と指示があり、マイクロホン(7)からの音声信号が声紋比較回路(6)に供給され、ビデオフロッピ(1)からの声紋に関する音声信号と比較され、本人の声紋か否かが判断される。

一致すればステップ(ニ)に進む。ここでスピーカ(20)より「手のひらをガラス(23)の上に乗せて下さい」と指示があり、指紋がカメラ(13)により写し出される。そしてその映像信号が指紋比較回路(12)に供給され、ビデオフロッピ(1)からの指紋に関する面像信号と比較され、本人の指

紋か否かが判断される。

一致すればステップ(ホ)に進む。ここで制御回路(8)の制御のもとに、時計(14)が指すその時の時間を記録回路(15)及び記録ヘッド(16)を介してビデオフロッピ(1)の所定領域に記録する。次にステップ(ヘ)に進み、押入口(22)に差し込まれているビデオフロッピ(1)を排出し、ステップ(ト)で押入口(22)の扉を開ける。

ステップ(ロ)～(ニ)において比較結果が一致していなければステップ(チ)に進み、ビデオフロッピ(1)が押入口(22)より排出されるのを阻止し、更にステップ(リ)において、カメラ(11)、(13)からの映像信号、マイクロホン(7)からの音声信号及び時計(14)からの時間情報を、記録回路(15)及び記録ヘッド(16)を介してビデオフロッピ(1)に記録する。そして、ステップ(ヌ)で全ての動作を終了する。

〔発明の効果〕

上述の如くこの発明によれば、予めビデオフロ

ッピに記録された顔、指紋及び声紋に関する識別情報と実際に入力される被識別情報とを比較し、両者が一致してないときはビデオフロッピの排出を阻止すると共にその時の被識別情報をビデオフロッピに記録しておくようにしたので、完全な機械化が可能になると共に、記録機能を利用して隠用されたときでも、使用者の面像及び音声が発信として残すことができる。

また、ビデオフロッピでは面像信号と音声信号が同じ記録媒体上に記録できるので完全な識別用に進ずる。更に、それ自体記録機能もあるので、入門時間等のデータも記録でき、出退勤のデータベースとしても使用できる。

図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例を示すブロック図、第2図はこの発明による識別装置を示す側面図及び正面図、第3図はこの発明の動作説明に供するためのフローチャートである。

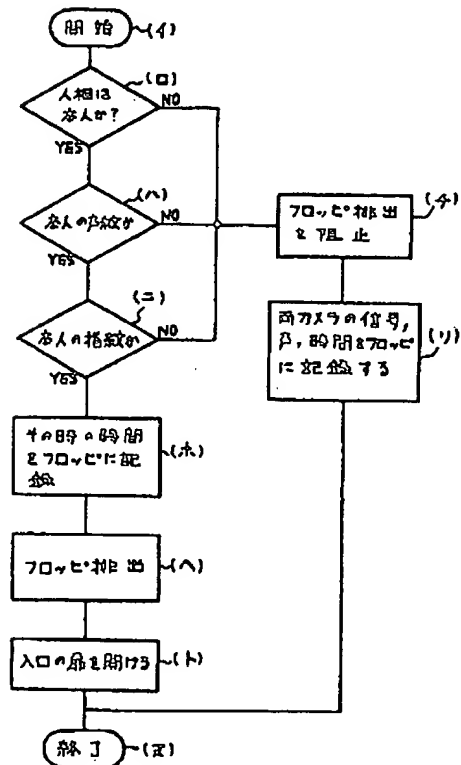
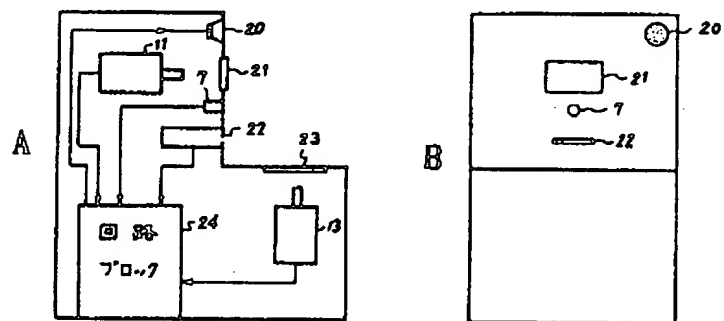
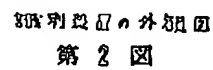
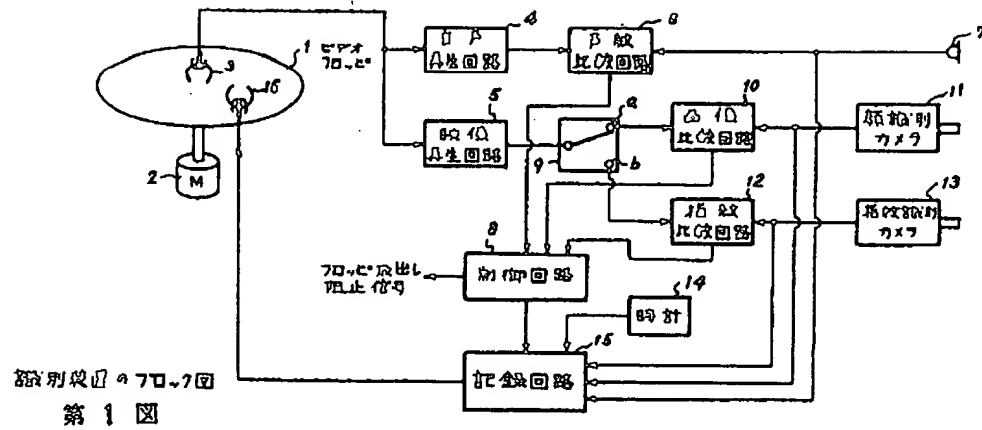
(1)はビデオフロッピ、(2)は再生ヘッド、(4)は音声再生回路、(5)は記録再生回路、(6)は声紋比較回

路、(7)はマイクロホン、(8)は制御回路、(10)は面像比較回路、(11)は顔識別カメラ、(12)は指紋比較回路、(13)は指紋識別カメラ、(14)は時計、(15)は記録回路、(16)は記録ヘッドである。

代理人 伊 藤 貞

同 松 岡 秀 盛





7口-トキマ-ト.
第 3 図